

2011年6月8日愛知県庁配布資料

長良川の治水と河口堰

東北大学客員教授
(財)リバーフロント整備センター
竹村公太郎

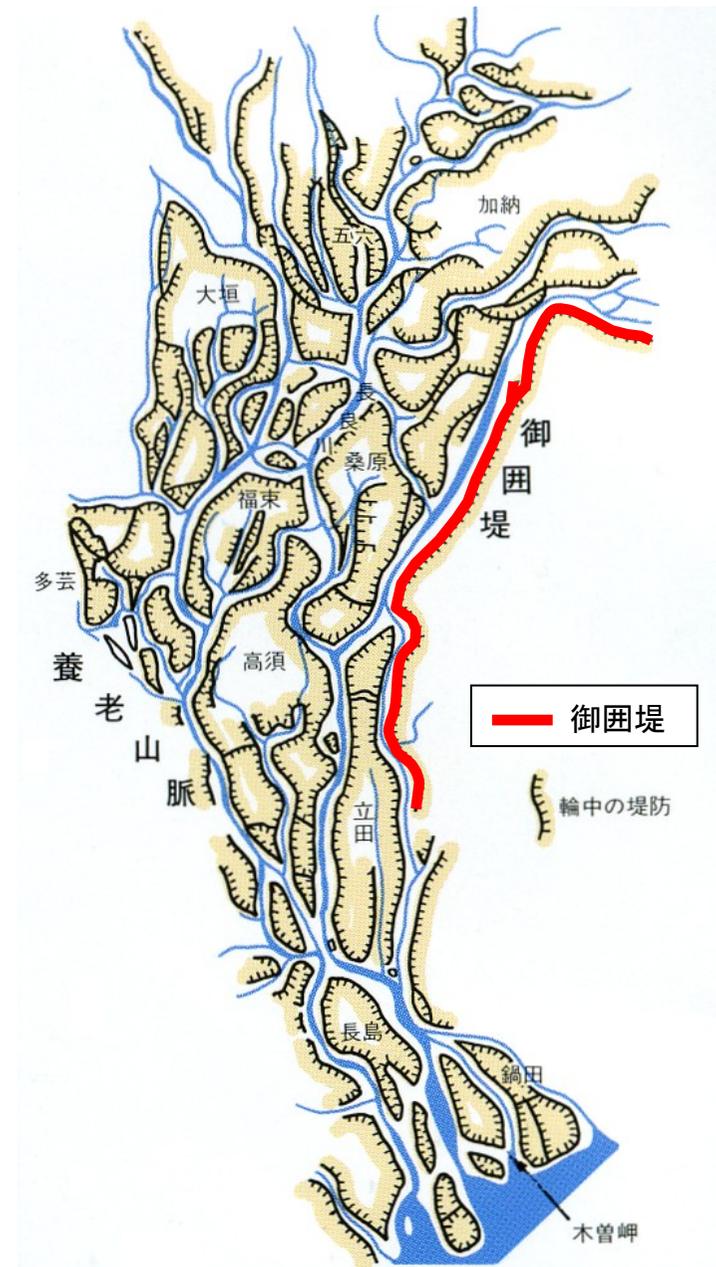
濃尾平野400年の苦しみ

江戸時代

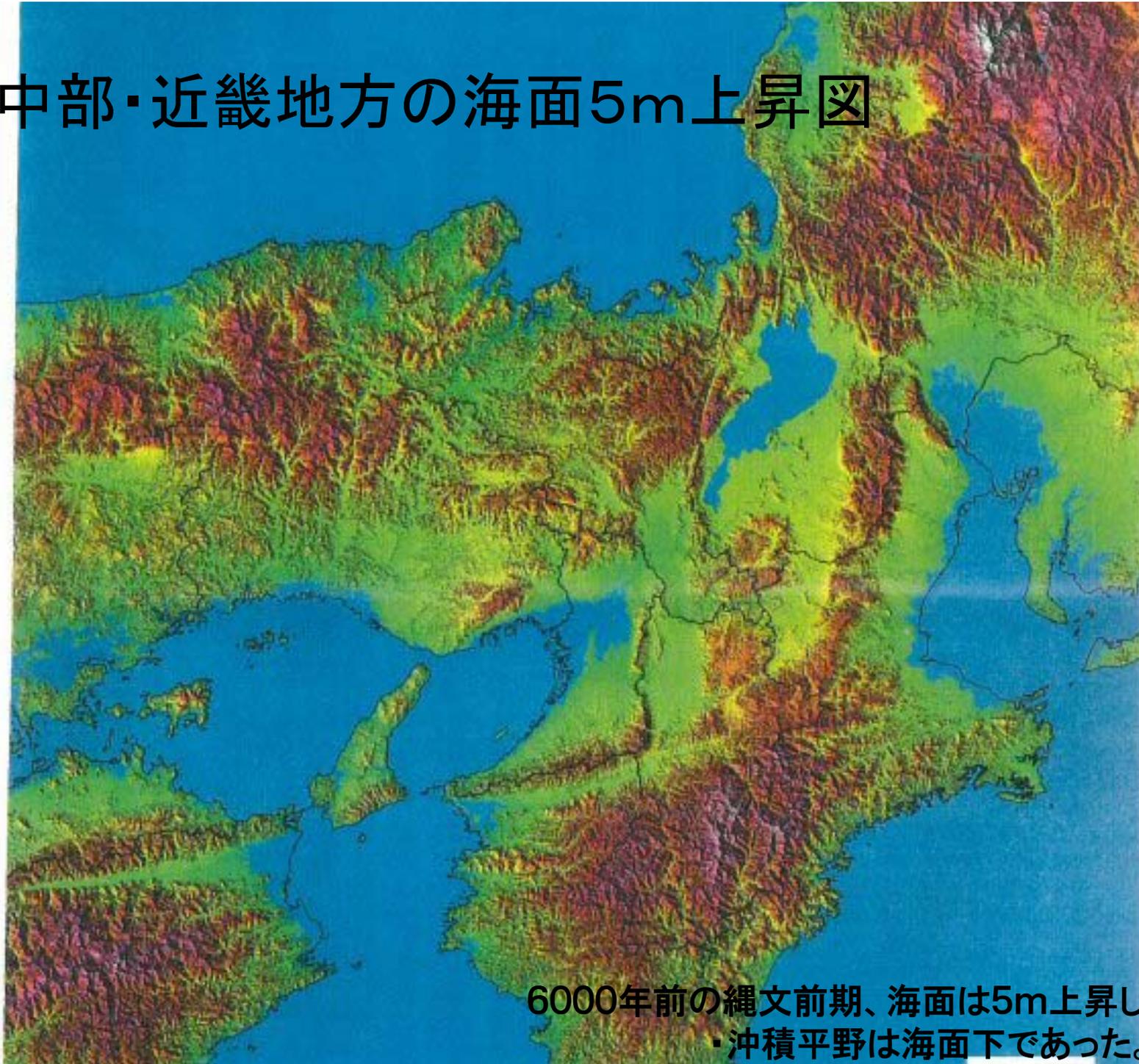
- ・1608年、徳川義直が木曾川左岸に御囲堤
「美濃の所堤は御囲堤より
低きこと3尺たるべし」
- ・5年に1度収穫なら平作
3年に1度収穫なら豊作
- ・1753年
薩摩藩によるお手伝い普請

明治近代以降

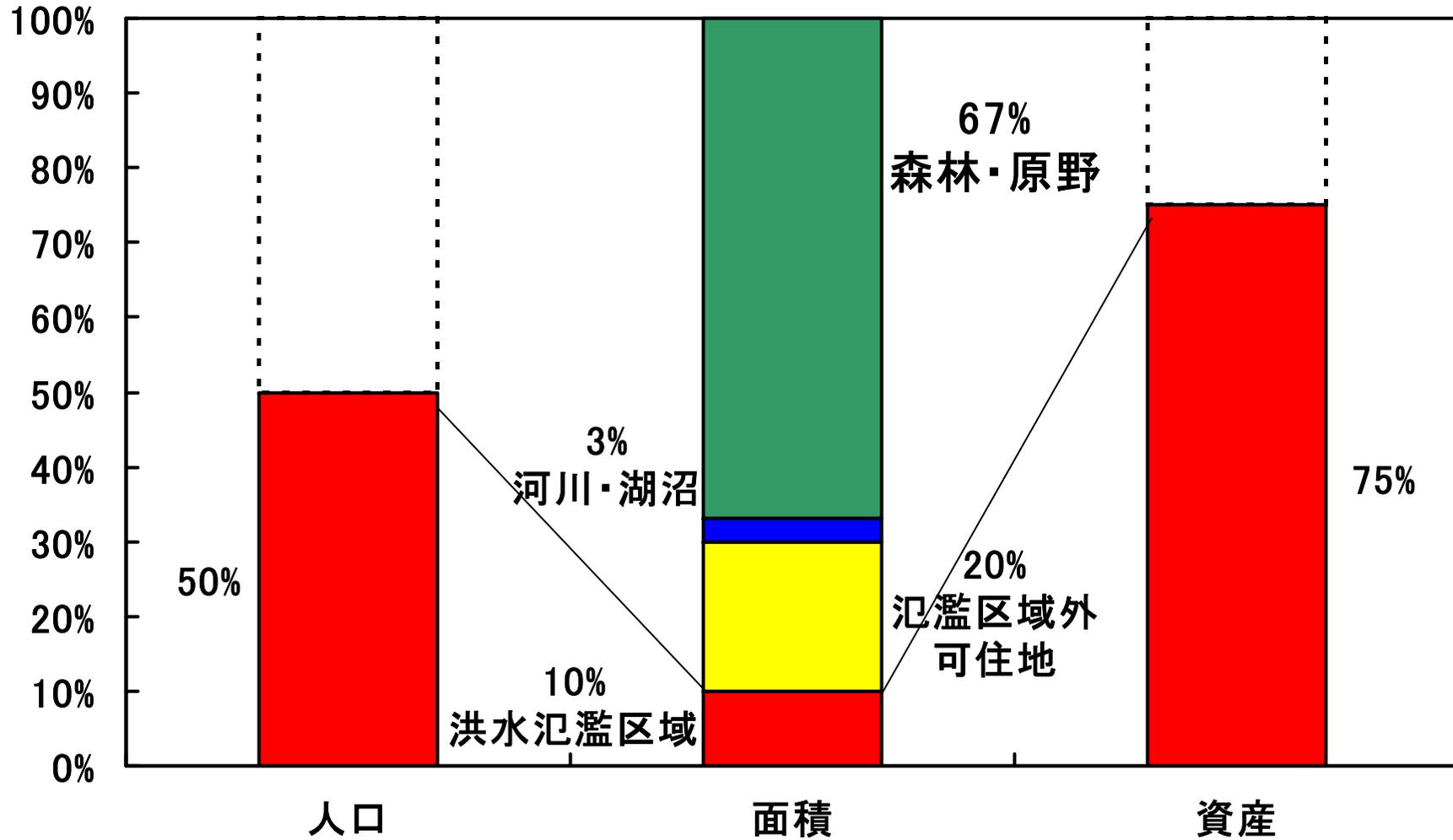
- ・明治改修、我が国最初の本格治水工事
三川の分流工事
- ・水害の頻発
明治26年、明治29年、明治38年、
昭和10年、昭和13年、昭和27年
- ・昭和の3大洪水(34年、35年、36年)
- ・昭和43年、長良川河口堰閣議決定
(下流部の浚渫に対処して塩害を防除する..)



中部・近畿地方の海面5m上昇図



日本の国土利用状況



沖積平野の上に近代文明を構築した日本、
10%の洪水氾濫区域に人口の50%、資産の75%

治水の原則

「洪水の水位を下げる」

1cmでも10cmでも

「水位を下げる」手法

- ・上流で洪水を貯める(ダム、遊水池)
地形上適地なし
- ・川幅を広げて水位を下げる
木曾川、揖斐川に挟まれ拡幅は困難
- ・川底を掘って水位を下げる(浚渫)



長良川15km地点の巨大な砂州(マウンド)
一流れを阻害し、洪水位を上昇させている一

利根川の大塩害の長良川治水への反映

S33年:利根川の大塩害

S34年、35年、36年:長良川の三大洪水

S43年:長良川河口堰閣議決定

治水「**下流部の浚渫に対処して塩害を防除する**」

利水「**上水道及び工業用水を確保する**」